



南十字星

発行者
クイーンズランド
補習授業校
校長
丸山吉信

戦後七十年に寄せて

戦後七十年の今年、オーストラリアのテレビでも、広島、長崎の原爆の日、十五日の終戦記念日の日本の様子が放映されていました。私たちの補習校でも十五日の正午に遙か遠い日本の方を向いて黙祷を捧げました。

この機会に、昨年度の「文集」に掲載漏れとなってしまった昨年度六年生の作文「私にとっての平和」を掲載します。

「私にとっての平和」

金子桃華

私にとっての平和というのは、戦争はもちろん、けんかななどの争いが無く、傷つく人が少ないことだと思います。なぜなら、戦争は、国同士のけんかだし、どちらにしても、誰かは傷つくからです。

私が読んだ本の中に、戦争へ行った人達の体験が書いてありました。ある人は、家族や友達が殺され、何回もつらい思いをした人がいました。その人

は、「人にやさしさがあれば、罪の無い人の命をうばうことはできない。だから、今の人の若い人達は、思いやりのあるやさしい人になってほしい。そして、まわりを敬い、理解しあうことが大切。」と語っていました。私もまさにその通りだと思いました。この人が言っていることは、教科書にのっていた、「けんかになりそうな時にはどうすればいいのか。」というのに似ていると思いました。この本の中には、「血」や「死体」という言葉がたくさん入っていました。私は、そういった言葉が苦手で、「死体が転がっていた」というだけで、ぞくぞくして体がふるえてしまうくらいこわいのには、戦争のころの人達は、すごいと思いました。もしも私だったら、目の前で人が殺されたりした時、こわくてこわくて、泣くのもわすれて足がすくんでしまうのではないかと思います。また、もしも私だったら、親や友達が殺されたら、相手に返しを考えるのではないかと考えると、死ぬよりもこわいです。理由は、戦争は、やられたらやり返すと

いうことでできているので、一回やると、「やり返す」のくり返しでいつまでも終わらないからです。

ただ、戦争を好む人はいないのだから、できるだけ他の人を敬い、自分だけの意見をおしつけずに、みんなの意見を聞くということが大切だと考えます。このことをわすれずに、他の人と仲良くしていくことが、個人そして、いつかは国の平和につながるのではないのでしょうか。

理社学習報告 (続き)

六年生

「理科」教科書のページ&単元名
「二. 植物の成長と日光の関わり (p 二十八〜三十五)」

・導入文と教科書の写真から、植物と日光について気づいたことを話し合った。また、第五学年で学習内容を振り返り、植物の成長にはでんぷんが使われることを振り返った。

・植物の葉に日光が当たると葉にでんぷんができるか調べる「実験をおこなうことと、そのための手順を確認した。教師主導で実験を行った。

・実験の内容から、午前と午後に分けての実験を行う必要があったため、第

一校時に最初の実験を行った。

・第一校時に行った実験で、予想通り日光を当てていない葉にヨウ素液ででんぷん反応が出なかったことを受けて、児童の意欲はとても高まり、午後の実験を楽しみにしていた。しかし、日光を当てた葉のヨウ素液ででんぷん反応がとても弱く、最初の実験ほどの感動を味わうことができなかったことがとても残念であった。

・強いヨウ素液ででんぷん反応を見るために、片栗粉とジャガイモの断面に、Betadine 液を希釈したものをかけて、色の変化を確認した。変色する様子を驚きながら観察していた。

・三十五ページの「確かめよう」「学んだことを生かそう」では、実験で学んだことを通し、いろいろな意見が出された。正解ではない意見の中にも児童なりの面白い考察があり、その考える過程が大切であることを話しつつ、正解とその理由に導いた。

・今単元に関連する単元である「四. 植物の成長と水の関わり」を読み、植物の成長に更に理解を深めるよう励ました。

中学一年生

「地理」地球儀と世界地図についての学習をしました。球面を地図として、

平面に置き換える時の工夫や、それでも解消されない不具合などを考えました。三大洋と六大陸の位置関係をおさえながら、主要各国の地政学的問題についても考えました。

中学部理科学習

電気のない生活がどのようなものになるかを話し合い、いかに現在が電気に依存しているかを、改めて実感しました。またその歴史は、三千年前までさかのぼり、その後十八世紀になって、やっと人々が、その特性を知り、コントロールできるようになったことを学習しました。その後、実際に十円玉と一円玉とオレンジを使い発電の実験をしました。オレンジの代わりに食塩水でも発電することを確かめ、身近にあるもので、簡単に〇、六ボルトの電気が取り出せることに驚き、生徒たちからは、それ以外での物質でも、発電が可能か、またもつと発電力を上げるにはどうしたらいいかなど、電気に関する興味が大いに湧いたようでした。最後に発電の基礎的原理を学び、ソーラーパネルの実物による発電の様子を観察し、次回十一月の理科の学習日には、ソーラーを利用した独立型発電ユニットについての基本的回路を学ぶことを予告しました。

中学部歴史学習

台湾で日本人学校に行つた生徒以外は、導入する用語が難しかったようです。しかしながら、日本では八世紀には、律令国家が成立し、平城京、平安京という都があり(年代を暗記させたい)、和銅開宝という貨幣もあつたことを認識し、国際的な天平文化も栄えたことを学びました。それは、遣隋使、遣唐使という留学生を介してでもあつたことを抑えました。その後、九世紀終わりに遣唐使が廃止され、国風文化が栄え、十一世紀平安京で藤原道長という貴族がいたところ、摂関政治がおこなわれ栄えたことを学びました。百人一首にもでてくる和歌が収められている万葉集、古今和歌集及び『竹取物語』や『枕草子』はこれら、奈良、平安時代に生まれたことを強調しました。一一九二年までは、侍政権は成立せず、日本文化は侍文化ではないことを初めて知つた生徒が多かつたです。班田収受法と荘園については話す時間はありませんでした。もつと年表を使って、世界の中のこれらの時代を把握しなかったのですが、時間がありませんでした。

お知らせ

(一) 九月十二日が今年度の文集原稿締切日になっていきます。テーマや原稿用紙について担任からの指示がある場合にはそれに従つて下さい。特別な指示がない場合には、「将来の夢」または「補習校の思い出」と題して、ゴールドコースト校ホームページにある学年別の「文集」用原稿用紙に書いて下さい。

用紙は一枚が原則ですが、二枚になつても構いません。ただし、二枚になる場合には、二枚目の右下欄外に氏名と二枚目であることを明記してください。

また、今年は、氏名の上に出席番号を記入して下さい。

原稿は文字によるものを原則とします。挿絵を添えることは可能ですが、写真を添えることは禁止です。

提出は一作品だけです。一人で二点以上の提出をしないで下さい。

(二) 八月二十二日は、社会科学学習の日になっています。今回の社会科学学習は朝の時間帯だけの学習ですので、お弁当に必要はありません。教科書を忘れないで下さい。小一は「せいかわつ(上)」、小二は昨年配布の「せいかわつ(下)」、小三から小六は「社会(上)」

中一は「地理」、中二は「歴史」、中三は「公民」です。小四の「社会(上)」は昨年度配布のものです。

(三) 八月二十二日に小一と小二の児童に「せいかわつ」科の植物栽培教材を配布します。小一は「いちご栽培キット」、小二は「ミニトマト栽培キット」です。容器に記載の説明または担任より配布の説明書に従つて、自宅で栽培し、観察記録をつけて下さい。観察記録は補習校祭りで展示する予定です。



今後の予定

十月二十四日まで

・教育相談期間

八月二十二日・社会科学学習日

九月十二日・文集原稿締切(幼稚部は十一月七日)

九月十九日・第二学期終業式

・成績通知表配布